

第15回 国立市これからの公共施設の在り方審議会 議事要旨(記録)

日時	令和2年7月1日(火)19:00~21:00
場所	国立市役所2階 委員会室
出席委員 (五十音順)	(会長) 山重 慎二 委員 (副会長) 三田 友一 委員 佐々木 陽一 委員、杉野 聖子 委員、山口 茂 委員 十松 扶美子 委員、中原 修 委員、土屋 邦美 委員、塚田 好彦 委員
欠席	米川 覚 委員
説明員・ 事務局	宮崎政策経営部長、古川資産活用担当課長、小宮資産活用担当係長
傍聴者	なし

○議事

1. 政策経営部長挨拶
2. 会長および副会長選出
3. (議題) 『(仮称)国立市公共施設再編計画』について

○配付資料

資料 No.15-1. 『(仮称)国立市公共施設再編計画(案)』たたき台
第14回審議会 議事要旨(委員意見集約一覧)

前回審議会からの継続審査であり、委員も全員再任であることから委嘱状の手交及び、諮問を省略することについて了承いただいたため、両議事について割愛した。

1. 宮崎政策経営部長挨拶

2. 会長および副会長選出

○互選により、会長には山重委員が選出された。

○会長の指名により、副会長には三田委員が選出された。

1. (議題1) 『(仮称) 国立市公共施設再編計画』について

事務局より、第14回会議以降に変更した点について説明を行った。

□山重会長

- ・今後のスケジュールとして、今月末か来月上旬ごろに第16回審議会を開催した後、市民の方の意見も聞きたいのでパブリックコメント形式で市民意見の募集を行いたいと考えている。
- ・意見集約後、9月下旬に第17回審議会を開催、10月中旬に市長に答申書を提出するような予定でいる。
- ・本日はこれまで議論されてきた概念的な部分についての整理と、全市施設についての議論が少なかったためその点についてもご意見を頂きたいと思う。

□十松委員

- ・ページ下に脚注を入れており、その必要性は理解できるがページ数が隠れてしまう点について対応したほうが良い
- ・富士見台圏域のところ「緑視率」とあるが、「緑被率」ではないか。

■事務局

- ・国立市は多摩26市の中でみると緑被率は低い自治体である。しかし、市外の人に「緑の多い国立」というイメージを持たれているのは、大学通りやさくら通りなど視界に入る緑が多いことが影響していると考えている。その為、今回は「緑視率」という表現を行った。

□山重会長

- ・IDユニットに関して確認したいが、IDユニットは審議会として出した意見ではなく、市のまちづくりのビジョンであると認識している。IDユニットの圏域の考え方、圏域を連結させるという考え方は悪くないと思っているが、本審議会は公共施設について議論する場であり、まちづくりについて議論する場ではないと認識している。そのため、圏域ごとにサービスの拠点をつくるという点は整合的であり、市のビジョンを実現するような計画となるが、IDユニットについて

ては、市のビジョンを紹介しているという扱い、位置付けとすることを確認したい。

- ・ 審議会の答申が市として受け入れられれば、最終的には市の方針として公表される形になる。市と審議会がお互いに共感しあえるものを作り上げられることが望ましいと考えている。その為、IDユニットのように市の考えやビジョンというものも教えてもらいながら、議論・作成していければ良いと思っている。

□佐々木委員

- ・ 児童遊園の扱いについて、審議会では集約などの意見が出されていたが、今回の資料で公園担当課が市民調査を行い、小さい公園も憩いの場として残したいという意見が出されたとの情報が加えられている。この調査結果を現在の方針とする認識で良いか。

□山重会長

- ・ 公共施設等総合管理計画に基づき作成される個別計画の中に、公園の計画が含まれている。審議会において議論していただいたが、公園に関する計画のなかでより深く考えていくと事務局からも聞いているので、建築物を中心とする再編計画のなかではメインに扱わないようにしたい。

しかし、施設との関係性に触れながら、審議会において出された意見を紹介できるように仕上げていければと思っている。

□三田副会長

- ・ 3ページで行政の体制や職員研修について触れているが、マネジメントの推進のためには行政も職員の意識変化や、個々における変化の対応が非常に大事になると思う。それが抜け落ちると、計画は持っていてもそれに合わせた変化がバラバラになり繋がりが無いものになると感じる。様々な部署が変化を読み取ってどう考えるかが非常に大事だと思う。推進する行政がきちんとリードしていかなければならない。

■事務局

- ・ 総合管理計画を作成する前と後では職員の意識が変わってきたように感じる。職員研修も毎年行っているが、マネジメントという概念も少しずつではあるが理解し、意識されてきているように感じている。

□山重会長

- ・ 答申は市長に出すものだが、ぜひ職員の皆さんにも読んでいただきたい。

□中原委員

- ・ 公園について、確かに集約し大きくするというのも1つの考え方だが、大きくしてもボール遊びを始めとして禁止事項ばかりでは意味が無い。また、防災面を考えると大きな公園に一斉に

人が集まるよりは、人が分散して集まることができるということも利点と考えられる。
ただし、現在のように市民と市が協働で管理するという体制がいつまで維持していけるかという課題はあると思う。

□山重会長

- ・全市的施設について少し意見交換をしていきたいと思うがどうか。

□土屋委員

- ・文化芸術という視点が入った点については評価したい。

□山重会長

- ・全市施設の部分の記述は機能面の内容が多く、審議会としての想いがあまり盛り込まれていないように思われるので、その様な点も記述できたら良いと思う。その様な意見があればお願いしたい。

□三田副会長

- ・多くの人は学校が核になれば色々な意味で魅力的になると感じると思う。また、老朽化対策が限られてくるとなると、より一層、地域にある施設にしっかりと特色を持たせて、いきいき活動できる場を提供するという事が重要になってくると思う。
- ・施設をもっともっと活かす方法があるように思う。行政も特色をもっと活かすような仕組みや取組みを考えて行って欲しい。再編の考えと並行して、その様な点にも力点を置いて取り組んでいくことが必要であると考え。

□山重会長

- ・施設は国立市としてのアイデンティティーのようなものを醸成する場所にもなり得ると思うので、三田副会長の言われた取組みや施設の周知というようなものも必要だと思う。

□十松委員

- ・旧国立駅舎はコロナの影響もあるが、少し入りづらいと感じている。私は「Play me, I'm yours」のようにピアノを置くことも良いと思っている。再築のため検討会などに参加してきた人たちからも、色々な意見がもつとあったと思う。
いま最も新しい施設で、夢が描ける施設である。(P29の旧国立駅舎の)記述を読むと、その様な想いが感じられずさみしい。夢を抱けるような、もっといい表現が無いか考えていきたい。

□佐々木委員

- ・国立市として図書館をどのように管理運営していくか、ここで明確にしておくのが良いのではないか。

■事務局

- ・教育委員会において直営を継続していくという方針を決め、市としても確認をしている。

□佐々木委員

- ・私の知る図書館では、コロナ禍の影響で図書館機能が停止した。貸出し機能だけ再開しているが、図書館としての本来の機能を考えると、これまでの機能のままで良いのかという議論も出てくると思う。

例えば、外出できない状況への対応として、貸出しに行かなくても電子書籍で貸出しができると良いと思う。また、川崎市ではお年寄りが日課的に行く図書館を積極的に認知症対策の施設として位置付け、認知症対策の本を充実させたりしていると聞いたことがある。

直営を継続させるとしても、地域に応じた特色ある図書館という考え方で、これからのサービスの在り方は考えていくべきだろうと思う。

■事務局

- ・国立市には図書分室が各地域にある。分室では書籍の貸出しだけでなく、読み聞かせの会など様々なイベントを各分室で検討、開催され、高齢の方の居場所にもなっている。そのため、開館時間や日数を増やしてほしいという要望も出ており、対応している状況である。電子書籍について、今般のコロナ禍の状況により現場でも必要性について認識しているので、検討が進んでいくものと考えている。

□山重会長

- ・市民が利用したいと思える施設となる取り組みが引き出されると良い。国立市でも、様々な取り組みを行ってきているので、それを紹介するような記述などがあっても良いと思う。

□十松委員

- ・私にとっての国立らしさは中央図書館と公民館である。中央図書館が直営で運営し続けるということは拘っていただきたいと考えるが、それでいながら、佐々木委員の言われるように頭を固くせず柔軟に創意工夫をしていってほしい。

□土屋委員

- ・各委員より特色という意見が出されている。この点について圏域についてももう少し特色というものを出していくような議論、記述をしてはどうか。また、その様なことを検討する場合、予定しているパブリックコメント形式ではなく、地域に精通している方の意見を聞く場も必要だと思う。それぞれの圏域の生の声を聴くという事も大事ではないか。

□山重会長

- ・各圏域や施設の特徴というもの的大事だと思う。しかし、審議会の答申として強く特色という「色」を持たせることは控えた方が良く考える。様々な意見があると思われ、それらは答申後、行政がまちづくりの中で市民の方の意見を聞きながら仕上げていく方が望ましいように思う。

■事務局

- ・答申を頂いた後、市として計画にまとめていく際、説明会などを行っていきたいと考えている。

□佐々木委員

- ・私見も入ってしまうが「文教都市くにたち」という国立らしさの中核になる施設は図書館と公民館、それに地域集会所であると思う。地域集会所はコミュニティ醸成の場として外せないと考えており、その辺の位置づけを強調するという事も考えていただきたいと思う。

ただし、注目すべきは数が多い。稼働率が高い施設もあるが、全体的に見るとそうでもないと思う。時間や利用者の属性にも偏りがあつたと認識している。その原因に借り難いという側面があると思うので、借りやすくするなど、一般開放的な部分を強調していくという事も大事だと思う。

一方で、既に拠点として使っているサークルなどもあると思うので、その様な部分への配慮は必要である。あまり急進的なやり方ではなく、お互いが利益を享受できる仕組みというものを考えていかなければならない。単純な統廃合の検討だけでは済まないで中身の話を是非していただきたいし、低くなっている稼働率を上げるため、借り難さの原因を究明し、それが非合理的な理由であれば、もう少し市民に対してオープンにしていく必要があると思う。

□山重会長

- ・災害時の対応や管理してくださっている方の高齢化も含めて、IT化の促進というのが重要になってくると思われる。IT化により日常の利用促進にもつながるように思う。IT化についても少し記述をしていきたいと思う。

□山口委員

- ・谷保圏域にある図表15はハザードマップだと思うが、第三中学校では全校生徒にハザードマップを配った。また、校舎内の随所に掲示している。

三中地区で特に南側に住んでいる生徒には身を守るためにはどうしたら良いのかという事を強く教えたいと考えている。危ない地域ではなく、この様なハザードマップがあるから安全に避難できるという事を強調できると良い。

- ・コロナ禍により休校が続いたことも影響して、タブレット学習が多く導入されたが、各家庭でもITの必要性に対する認識がかなり高まったように思う。受け手側が整備されていれば、発信側からの情報も有効活用できると思える。災害時にも大きな効果があると思う。

□杉野委員

- ・全体的なトーンとしてももう少し審議会の意見として言い切るような部分があっても良いかと思うので、見直しが必要だと考える。
- ・IT化の議論に関して、理解できる部分であり、利便性や時代を考えていくとIT化は流れとして絶対あると思う。しかし、例えば公民館では貸室の利用申し込みを行い、会場調整を行うという非常に手間が掛かりアナログ的なことがされている。しかし、その中で育んできた、人との繋がりを国立市は大事にしてきたと思う。圏域という地域単位に焦点を当てるのであれば、地域集会所についても管理人さんとのつながりなど、これまで育んできたことも記述として入れられれば良いと思う。

□山重委員

- ・IT化により人間らしさが失われることもあるのでバランスが重要で、それをうまく取れるようなまちになっていくと良いと思う。
- ・これまでの意見を聞いていても、文言のチェックは全体的に必要なと思う。

□塚田委員

- ・年次別事業一覧に所管課欄があるが、全庁的にマネジメントしていくと言いながら、所管課が書かれていると結局は各課でやっていくのかと思ってしまう。
- ・現在、人件費だけでも非常に高騰しており、今後も上がっていくと思われる。しっかりと各種データを持って進めていってもらいたい。その為にも所管課がそれぞれ要望を出して、無秩序に行わないよう、全体的マネジメントを行ってほしい。

□佐々木委員

- ・目標というのはある程度立てて進めていかなければならないと思う。また、他自治体の進行管理をしていて感じることは、各担当部署から計画の立案が出てくるが、出来ることしか出てこない、出てきた段階で市民のニーズと違うという状況が散見される。その為、なるべく早い段階で計画を市民に公表するということが大切になってくると思う。
- ・計画の進捗状況管理についても、他市状況から考えると毎年度評価は続かないと思う。中間年度で軌道修正できるようなチェックをするなどのやり方もあると考える。また、評価と予算要求の時期に気を付けたほうが良い。前々年度の数値で評価したもので予算計上しないよう、評価時期を早めるなどの対応をして進めていく必要がある。

以上